

生活科 授業改善推進プラン

1 児童の実態（課題）

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
・植物の栽培では、すすんで世話をする姿が見られたが、教師に声を掛けられないと世話をしない時もあった。 ・生活の中での体験や気づきを基に考えることが少ない。	・野菜の栽培では、意欲的に世話をしたり観察をしたりする姿が見られた。 ・学校案内では、1 年生と関わる活動を通して、2 年生としての役割に気付くことができた。				

2 課題や授業の改善策

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
知識・技能	・日常生活の中で、身近な人々や自然と関わる機会を増やし、児童が興味のあることやこれまでの経験を学習に結び付けられるようにする。	・植物や生き物の成長や変化、町の様子などについて、事前に調べる視点をもたせてから、観察や調査活動を行うことで、知識や技能を習得させていく。				
思考・判断・表現	・国語科で学んだ観察の視点を生かして観察したり表現したりさせる。 ・分かったことをまとめたり、発表したりする機会を設け、経験したことを追体験させる。	・栽培・飼育活動、町探検などで気付いたり考えたりした内容を、観点や具体例を示すことで、伝え方を工夫して表現できるようにする。（国語科の学習ともリンクさせる。）				
主体的に学習に取り組む態度	・自分の生活やこれまでの体験と結び付けて考えさせ、気づきが広まるような発問をする。	・意図的に体験的な活動を設定することで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・学校案内や町探検の計画や実施を通して、下学年や同学年の友達とすすんで関われるようにする。				

※重視する内容は、網掛けで強調する。